

今月もイシガレイは採集できず

■先月に続きイシガレイは採集できず

先月に続き、今月もイシガレイを採集することができなかった。先月は波の影響で深い場所へ移動したのではないかと考えたが、今回の調査では波が高かった様子は見られない。イシガレイを採集できない理由を、海が荒れて深い場所へ移動したとは考えづらくなった。「イシガレイが存在しない」と断定することはできないが、6・7月の2ヶ月にわたって採集できなかったことは事実である。「例年より数が少ない」「例年より深い場所に生息している」「例年より早く外海へ移動した」などの可能性が考えられる。気象庁のデータによると、7月17日の蒲生沖の海面水温は平年差 2.5°C 程度である（参考 気象庁HP各種データ・資料 日別海面水温）。 2.5°C は小さな数字ではなく、水温上昇が影響を与えた可能性はあるが、短絡的に原因を水温上昇と断定することはできない。

■ヒメハゼとマハゼ

Fig.1は今回採集したヒメハゼとマハゼである。奥の1匹がマハゼで手前2匹はヒメハゼである。このマハゼは5cm程度であるが、宮城県では秋には25cmほどの個体も見られる。Fig.1の写真の大きさでは、2種の区別が難しいかもしれないが、マハゼの尾びれには矢羽根のような模様が見られる（Fig.2）。

雄・雌のモクズガニの成体（Fig.3）や甲幅5mmほどのガザミ（Fig.4）を採集した。5~10mmのアサリやソトオリガイも見られ、生物の繁殖行動や、次世代の再生産は順調に行われていると思われた。



(Fig.1 ヒメハゼとマハゼ)



(Fig.2 マハゼの尾びれ Fig.1を拡大)



(Fig.3 モクズガニ雌)



(Fig.4 ガザミ) (佐藤 賢治)